

社会はまるごと学校—— すべての大人が先生です



「全国大学ビブリオバトル2017首都決戦」で優勝し、喜びのあいさつをする広島大学の島田雄大さん(右)、準優勝の柳沼永さん(左上)、ゲスト特別賞の高橋一彰さん(左下)(記事2・3面へ)

巻頭特集

私のイチ押し、この一冊 全国大学ビブリオバトル 2017首都決戦

2・3

ワークシート通信
広がる活用

利用者数が1万を突破

4・5

第61回 日本学生科学賞 中高2作品に内閣総理大臣賞

6

新聞活用の教員向け研修会 **土曜サロン 秋田・横手で開催**

7

出前授業 共立女子中学・高等学校×KDDI「スマホで防災」

8

大和証券グループが「こども応援基金」を設立 9 待望のまんが化『理科系の作文技術』

10

リレーエッセー カナダ・マギル大学「多文化環境の中での新しい価値の習得」

11

2018.1

Vol.37

私のイチ押し、この一冊

知的書評合戦 全国大学ビブリオバトル2017 首都決戦

大学生がお薦めの本を紹介し、聴衆が読みたくなった本を投票で決める書評合戦「全国大学ビブリオバトル2017首都決戦」が2017年12月17日、東京都千代田区のみどり大手町ホールで開かれた。各地区の予選を勝ち抜いた代表36人が出場。広島大学理学部1年の島田雄大さん(19)が紹介した「18禁日記」が最多票を獲得し、グランドチャンプ本に選ばれた。

【主催】活字文化推進会議 【共催】ビブリオバトル普及委員会 【主管】読売新聞社



グランドチャンプ本に輝いた「18禁日記」の魅力を語る島田さん

8回目となる大学生大会の予選には過去最多の127大学のべ1160人が参加した。地区代表36人のうち6人が、全国高校ビブリオバトルの出場経験者だった。島田さんは軽妙な語り口と、緻密に練られた発表内容で観客の心をつかんだ。「18禁日記」

とありますが、高1の時に本屋で見つけ、「これやばいやん!」と思い、読んだら楽しかった。ユーモアあふれる話術が笑いを誘った。準グランドチャンプ本に選ばれたのは、郡山女子大学短期大学部専攻科2年の柳沼永さんが紹介した「メ切本」。締め切りが近づくと熱が出る「原稿性発熱」など、文豪ら90人の締め切りにもまつわる話を笑いながら読んで。しかし、卒業論文の執筆に追われる時に読み返すと、「私の苦しみなんてちっぽけなもの」と思った。「なぜか勇気がわいてくる本なので、ぜひ手にとって」と呼びかけた。ゲスト3人が選ぶ特別賞は、放送大学4年の高橋一彰さんが取り上げた「絶望ノート」が獲得した。いじめを受ける男子中学生が書く日記をめぐるミステリーを、淡々とした口調で紹介した。「過去に受けたいじめへの怒りや憎しみが消えて心が救われ、家族の大切さも学んだ。自身の体験も交えて訴えた。

「自分はまだしも」の価値観揺るがす

グランドチャンプ本 18禁日記 二宮敦人著

島田雄大さん 広島大学理学部1年



皆さんの価値観を揺るがし、考え方を見つめ直させてくれる一冊を紹介します。帯に「あなたは自分が狂っていないと自信を持って言えますか?」と書かれています。自分はまだしもだと思ってる大多数の人も、「本当にそうなのか」と考えさせる不思議な本です。

この本には小学生から大人まで、様々な男女の日記やメール、ブログ、遺書が収められています。こういった点が、皆さんの

価値観を揺るがすのか。まず1点目は、フィクションであると言いきれないから。私たちの生きていくリアルな日常が描かれており、フィクションと否定できない点、怖いところ。2点目は、この日記を書いた人たちの共通点です。彼らがまだもてないこと、そして彼らがもてたこと、という点。ここに載っている人は、皆さんと同じまともであつた人なのです。この中に「Rの詩集」とい



18禁日記 二宮敦人著 / TOブックス



緊張した面持ちでステージに並ぶ出場者



ゲスト特別賞のトロフィーを手に満面の笑みを浮かべる高橋さん



島田さんの発表に聴き入る観客



準グランドチャンプ本「メ切本」を手に取る柳沼さん



トークセッションに臨む(左から)高井さん、中江さん、谷口さん

■出場36人のお薦め本(敬称略) ★は決勝進出者

中道 遥季乃	帝京大学	大人に質問!大人ってどのくらい大変なんですか?	みうらじゆん+児童館の子どもたち/飛鳥新社
織田 俊輔	名古屋学院大学	メ切本	左右社編集部編/左右社
西川 里穂	帝塚山大学	もってけ屋敷と僕の読書日記	三川みり/新潮社
★ 島田 雄大	広島大学	18禁日記	二宮敦人/TOブックス
和田 大樹	長崎ウエスレヤン大学	母さんごめん、もう無理だ	朝日新聞社会部/幻冬舎
岡 ひかり	大阪大学	こんなにも優しい、世界の終わりがた	市川拓司/小学館
山下 藍子	北海道大学	穴 HOLES	ルイス・サッカー/講談社
★ 安井 彩乃	聖学院大学	名前探しの放課後	辻村深月/講談社
野村 亮太	皇學館大学	大人のための残酷童話	倉橋由美子/新潮社
前田 賢吾	大阪工業大学大学院	全天星座百科	藤井旭/河出書房新社
半澤 七菜	徳島大学	何者	朝井リョウ/新潮社
田中 佐季	福岡女学院大学	伝え方が9割	佐々木圭一/ダイヤモンド社
高橋 穂百	北見工業大学	三日間の幸福	三秋健/KADOKAWA
★ 北原 光梨	筑波大学	夜の国のクーパー	伊坂幸太郎/東京創元社
井上 周	金沢大学	アルケミスト 夢を旅した少年	パウロ・コエリョ/KADOKAWA
廣瀬 彩乃	島根県立大学	とりつくしま	東直子/筑摩書房
関 友介	びわこ学院大学	余命10年	小坂流加/文芸社
尾崎 亮祐	中部学院大学	たのしか	武田双雲/ダイヤモンド社
★ 柳沼 永	郡山女子大学短期大学部専攻科	メ切本	左右社編集部編/左右社
渡邊 瞳	敬和学園大学	すばらしい新世界	オルダス・L.L.ハックスリー/講談社
成田 幸一郎	甲南大学	また、同じ夢を見ていた	住野よる/双葉社
小倉 裕平	鳥取大学	読んでいない本について堂々と語る方法	ビエール・バイヤール/筑摩書房
河野 安友加	愛媛県立医療技術大学	君は月夜に光り輝く	佐野徹夜/KADOKAWA
久永 草太	宮崎大学	冒険者たち ガンバと15ひきの仲間	斎藤孝夫・藪内正幸/アリス館牧新社
大浦 みどり	盛岡大学	憧れの女の子	朝比奈あすか/双葉社
倉又 遼太郎	信州大学	第一次世界大戦史	飯倉章/中央公論新社
朝田 秀一	京都大学	ランボー怒りの改新	前野ひろみち/星海社
吉岡 幹生	環太平洋大学	桜の森の満開の下	坂口安吾/講談社
秦 美波	九州女子大学	ヴァニティ	唯川恵/光文社
★ 高橋 一彰	放送大学	絶望ノート	歌野嘉午/幻冬舎
★ 中村 朱里	早稲田大学	一行怪談	吉田悠軌/PHP研究所
服部 邑	常葉大学	世界の不思議な図書館	アレックス・ジョンソン/創元社
申間 加奈子	高知大学	ワイルド・スワン	ユン・チアン/講談社
小池 夏美	尾道市立大学	ローマ帽子の謎	エラリー・クイーン/東京創元社
庄司 結	日本赤十字九州国際看護大学	グッド・フライト、グッド・ナイト	マーク・ヴァンホーナッカー/早川書房
新谷 勇馬	摂南大学	勇者たちへの伝言 いつの日か来た道	増山実/角川春樹事務所

■ビブリオバトル 「バトラ」と呼ばれる発表者は、観客の興味を引くように発表内容を工夫し、自らの体験などもさらけ出しながら、本とのつながりを明らかにする。2016年度から国語の教科書に記載され、若者向けの読書推進イベントとして広がりを見せている。図書館や書店などで開かれている。首都決戦を主催する活字文化推進会議は、若者の読書離れに歯止めをかけようと、読売新聞社が出版界に呼びかけて設立。大学生大会のほか、高校生大会、中学生大会を主催している。

活字文化推進会議の事業を紹介する「21世紀活字文化プロジェクト」のウェブサイトが新しくなりました。同会議が主催する「ビブリオバトル」中学、高校、大学の大会情報や動画などを多数掲載しています。

▶ <http://katsuji.yomiuri.co.jp/>



TALK SESSION

読書の仕方について、3人は好奇心の大切さを挙げた。高井さんは「自分の興味に合うものを見つけ、それを深く読んでいくのが楽しい」と言い、中江さんは「好きな本を見つけるため、自分のアンテナを鋭くしておくことが大事」と話した。「本との出会いは偶然に満ちあふれている。ご縁を大切に。谷口さんは、そうアドバイスした。

読書の仕方について、3人は好奇心の大切さを挙げた。高井さんは「自分の興味に合うものを見つけ、それを深く読んでいくのが楽しい」と言い、中江さんは「好きな本を見つけるため、自分のアンテナを鋭くしておくことが大事」と話した。「本との出会いは偶然に満ちあふれている。ご縁を大切に。谷口さんは、そうアドバイスした。

女優で作家の中江有里さん、紀伊国屋書店会長兼社長の高井昌史さん、ビブリオバトル考案者で立命館大学教授の谷口忠大さんの3人がゲスト出演し、トークセッションが開かれた。司会が、大学生でも進む読書離れへの対策を聞く頃から先生が、本の選び方などを丁寧に教えないと、読書が習慣にならない」と強調した。中江さんは「読書を通して鍛えられる読解力、集中力、想像力の三つの力は、すべての土台になる」と読書の大切さを説明。谷口さんは「若者に読めと言っより、大人が読んで面白いと言っことが大事。公民館などで近所の大人が楽しそうにビブリオバトルをするのもいいのでは」と提案した。

読売ワークシート通信

旬の記事＋設問 利用者数1万を突破

新聞を使った学習を支援するため、読売新聞社が学校などに無料で届けている「読売ワークシート通信」の利用者数が1月に1万件を超えました。学校現場では、専用コーナーを設置して教科別に引き出しを作ったり、朝学習で子どもたちに配ったり、活用が広がっています。スタートからもうすぐ9年、新年早々の大台超えに、編集チームも「さらに楽しい教材にしたい」と心を新たにしています。



記者が記事選びから 編集制作まで

ワークシート通信が始まったのは2009年4月。新聞と子どもたちをどう結びつけるか、苦勞している先生方の手助けになるよう企画しました。読売新聞や英字紙 The Japan News の記事に設問と解答欄をつけ、A4判1枚のシートに編集する形でスタート。様々な教科に合わせ、小学校低学年から高校ま

新しい新聞活用の形

現場では、朝学習や授業で利用するほか、家庭学習でも活用してもらっています。新聞活用の取り組みを始めたばかりの先生からは、「新聞記事をどう読ませたらよいか、視点がわからなかったのを助かる」「継続することで、新聞を読む習慣ができてきた」「1枚のシートから、教室でディスカッションが始まることも」と、様々な意見が寄せられます。中には自分でシートを作る先生もおり、「新しい新聞活用の姿が見えて、目からウロコです」との感想もいただきました。

図書館前に専用コーナーを開設

茨城県立水戸工業高校



教科ごとに整理されたワークシートは、自由に持ち帰れる

績を伸ばすための教材を探していたところ、同級生で図書委員長の榎みなみさんに、ワークシートを教えてもらったという。

「受験英語とは違う生の英語ってどんなのかなと興味があったが、英字新聞は字も細かくて堅苦しいイメージ。ワークシートはクイズ感覚で取り組めて面白く、受験勉強の息抜きにもなりました」

英語科の小野睦美教諭も、「教科書以外の英文に多く触れさせたい」と、英語ワークシートを授業で活用。社会科の前田彬貴教諭は、3年生の現代社会の授業の導入に利用している。「授業の内容に関連するワークシートを探して使ったり、最新のニュースを受けたシートを使ったり。ホットな話題をすぐに取り上げられる点がいい」

と前田教諭は話す。授業の題材を探しに図書館を訪れる教員に、水野谷さんがワークシートを薦めることも多く、道德の時間を丸1時間使って、ワークシートに取り組ませた教員もいる。

水野谷さんは、2012年に同校に着任した時、当時の教頭から読売ワークシート通信のことを聞き、早速登録。個別に生徒や教員に紹介していたが、さらに活用してもらいたいと、コーナーを設置した。「先生方にはぜひ、授業に新聞を使ってほしいのですが、すぐには難しい場合もあります。その点、ワークシートはそのまま使える形になっているので、取り入れやすいと思います」

鈴木則夫副校長は「アクティブ・ラーニングの重要性が高まる中で、新聞を題材にしたワークシートは、生徒に考えさせる教材として役に立っています」と話している。

茨城県立水戸工業高校(宇佐美浩校長)では、学校司書の水野谷由紀子さんが昨年4月、図書館前の廊下に「読売ワークシート通信」のコーナーを作った。生徒や教員が壁に掲示されている最新号を眺めたり、教科ごとに引き出しに収められているワークシートを、自由に持ち帰ったりする姿が見られる。

英語のワークシートを受験勉強に活用し、大学入試センター試験を乗り切ったというのは、3年生の浜村星苑君。英語の成

全シートを配布、掲示板貼り出しも

千葉市立鶴沢小学校

千葉市立鶴沢小学校(手川京子校長)でも、ワークシートを授業に取り入れたり、宿題で解いたり、全校的に活用している。中心になるのは、1年担任の丸吉美紀教諭と、5年担任の高橋庸介教諭の二人。毎週水曜日にワークシートが配信されると、各学年に全シートを配る一方、小学生が興味を持ちそうなシートを選び、掲示板にも貼り出している。

1月17日には、「給食甲子園 味競う」のシートが掲示され、さっそく児童の目を引いていた。5年生の森田裕樹さんは「毎週違ったワークシートが届くので、取り組むのが楽しい」と話す。

この日、1年1組の児童27人は、クラス

として推す東京五輪・パラリンピックのマスコットを、ワークシート学習を通じて決めた。丸吉教諭の指導で、昨年末に配信された「五輪マスコットに投票」を解きながら、ヒントになる記事中の言葉を丸で囲んだり、マスコットを選んだ理由を発表しあったりして盛り上がっていた。椎名理晴さんは「難しい問題もあるけど、考えて書くのが楽しい」と微笑んだ。

4~6年生が参加する図書委員会でも、ワークシートが活躍。委員たちは最近、「笑顔大賞」を選ぼう!!のシートに挑戦し、笑っ



貼り出されたワークシートの前に集まる児童ら

ている人の写真を新聞から切り抜いて貼り、選んだ理由を考えるなどした。丸吉教諭は「国語教科書が縦書きなのに対し、新聞は横書きや写真もあって情報表現が多様なのがいい。子どもたちには情報の集め方をぜひ学んでほしい」と期待している。

参加登録、利用お申し込みは <http://kyoiku.yomiuri.co.jp/>

ワークシートをご利用できるのは、原則として小中高校の教員および学校司書です。「読売教育ネットワーク」ご登録の際、読売ワークシート通信の「希望シート(小学校版か中学・高校版か)」選択欄にチェックを入れて申し込んでください。

第61回 日本学生科学賞

中高2作品に
内閣総理大臣賞

中高校生による優れた科学研究を表彰するコンクール「第61回日本学生科学賞」の入賞作品が決まった。物理、化学、生物、地学など6分野で応募があった約7万点から、入賞作品22点が選ばれた。最優秀作品に贈られる内閣総理大臣賞を紹介する。
(学生科学賞の詳細は、1月24日の読売新聞朝刊に掲載されました)

■受賞者(敬称略)

	中学	高校
内閣総理大臣賞	新潟県長岡市立東中2年・太田天晴	福岡県立香住丘高物理部水溶液班
文部科学大臣賞	岐阜県山県市立高富中生物部ふくぼっちゃん	熊本県立第一高地学部
環境大臣賞	新潟県上越市立八千浦中2年・岩片雪乃	埼玉県立坂戸高2年・浜野柊歩
科学技術政策担当大臣賞	東京都武蔵野市立第二中3年・岸田彩花	東京都立西高2年・鈴木万純
全日本科学教育振興委員会賞	栃木県那珂川町立馬頭中理科部	灘高(兵庫)2年・保呂有珠暉
読売新聞社賞	安田学園中(東京)生物部養蜂班	山口県立山口高理数科バブルリングの研究班
科学技術振興機構賞	海陽中等教育学校(愛知)3年・平石雄大	東京農業大第一高(東京)生物部
日本科学未来館賞	広島学院中(広島)カニ吸水毛班	福井県立丸岡高科学・情報部物理班
旭化成賞	秋田県由利本荘市立西目中科学部餅研究班	岐阜工業高等専門学校(岐阜)2年・長野雅
読売理工学院賞	神戸市立上野中3年・和田匠平	宮城県仙台第三高金メッキ班
学校賞	東京都立小石川中等教育学校	栃木県立佐野高科学部サンショウウオ班
指導教諭賞	秋田県由利本荘市立大内中・佐藤由美	山口県立山口高
		北海道札幌北高・中道洋友

中学の部

チリメンカワニナの研究

新潟県長岡市立東中2年 太田天晴さん(14)

傷に深紅の絆創膏



巻き貝の一種チリメンカワニナの観察で、貝殻の表面がはがれ、中にある白い石灰質がむき出しになる仕組みを解き明かした。さらに、むき出しの部分に分泌された深紅の物質が内側から覆い、絆創膏のような役割を果たして身を守ることも明らかにした。「びっくりにした。今まで頑張ってきた良かった」と受賞を喜ぶ。

研究のきっかけは昨年6月。新潟県長岡市立科学博物館の金安健一さん(64)

巻き貝の一種チリメンカワニナの観察で、貝殻の表面がはがれ、中にある白い石灰質がむき出しになる仕組みを解き明かした。さらに、むき出しの部分に分泌された深紅の物質が内側から覆い、絆創膏のような役割を果たして身を守ることも明らかにした。「びっくりにした。今まで頑張ってきた良かった」と受賞を喜ぶ。

研究のきっかけは昨年6月。新潟県長岡市立科学博物館の金安健一さん(64)

「環境変化に適応して自分で身を守ろうとするとところが面白かった。深紅の物質がどうやってでき、どんな組成なのか、その正体を突き止めたい」と、次の目標を見据えている。

高校の部

水溶液境界面の拡散速度の定量化

福岡県立香住丘高校 物理部水溶液班

混ざる水光で可視化



水中を通る光の屈折率の違いで生じるV字形の光の像を観察し、無色透明の蒸留水と水溶液が混ざり合う速さを調べられる装置を開発した。物理部の水溶液班が4年をかけて実験の精度を高め、水溶液に溶けた粒子の違いで混ざる速さが変わることがわかってきた。「先輩から研究を引き継ぎ、結果を残せてうれい」。2年生の井手美里さん(17)と写真左と今里茉央さん(17)と写真右は、達成感をかみしめる。

先輩たちが2013年に始めた実験に、一昨年から加わった井手さんたち。「刻々と変化するV字を記録すれば、無色透明の水が混ざり合う様子を可視化できる」との仮説のもと、水溶液の種類を増やしたり、記録を開始する時間を変えたりして実験を繰り返した。

その結果、昨年夏になって、水に溶かした粒子の違いによって、水溶液が境界面で蒸留水と混ざり合う速度が異なることをグラフと数式で示すことに成功した。井手さんらは「目の前で起きていることを説明できる理論を探し、検証することが大変だった」と振り返る。

ただ、水が混ざり合う際に粒子の速さはどう変化していくのかはわかっていない。2人の次の目標は、粒子の移動速度を決める要因が何なのかを見つけたり、速度を数式化したりすることだという。

新聞活用の教員向け研修会

土曜サロン

地方版初開催

秋田・横手

新聞を活用した授業の方法を学ぶ教員向けの研修会が1月19日、秋田県横手市で開かれた。読売新聞東京本社で毎月1度開かれている勉強会の初の地方版で、同本社教育ネットワーク事務局の秋山純子・アドバイザーと岩本洋二専門委員を講師に、市内の小中学校の教員25人が学んだ。

まず秋山アドバイザーが、その日の朝刊でそれぞれ面白いと思った記事の一つ取り上げて発表する学習方法を伝えた。災害取材の経験が豊富な岩本専門委員は、新聞づくりの流れを紹介。「新聞社は取材して記事を書く以外に、ニュースの価値判断をすることが大切になる」と説明した。

後半は秋山アドバイザーが講師となり、「まわしよみ新聞」を実践した。「まわしよみ新聞」は、当日の朝刊などを読み比べて気に入った記事を切り抜き、1枚の紙に貼って壁新聞を作る新聞活用方法。参加者は4人程度のグループに分かれ、壁新聞に掲載する記事のテーマについて話し合いながら新聞を制作した。



完成した新聞を紹介し合う参加者

新聞活用し、「いま」を考える勉強会

アドバイザー 秋山純子



読売新聞東京本社では、毎月第4土曜日の午後、学習活動における新聞活用について学ぶ、教員向けの勉強会「土曜サロン」を2008年から実施しています。この1月で86回を迎えます。

「新聞活用」をきっかけに集まった皆さんが、ゆったりとした気持ちで充電する場になれば、ということと「サロン」と名付けて誕生しました。ここでは、参加者が自発的に実践を持ち寄り交流し合う雰囲気の中で、多角的・多面的な視点から意見交換を図り、よりよい実践方法を編み出す機会にしたいと考えてきました。

また、毎回、新聞記者をゲストスピーカーとして招聘し、記者との交流の場を設定しています。これは、「新聞を知る」機会として、また、様々な専門分野をもつ新聞記者との出会いとして定着してきました。

市内の小中学校で「新聞の日」

今回は、秋田県横手市教育委員会主催の教員研修会において、秋田支局の支援のもと、横手市版「サロン」を開催させていただき

ことになりました。

横手市では、伊藤孝俊教育長が提唱する「横手はひとつ」というスローガンのもと、市内の全小中学校で「横手新聞の日」を設定し、組織的に「新聞活用」が広がり深まっています。

研修会のテーマは、「新聞で学ぶ」情報活用能力育成の基盤として」としました。本で行う「土曜サロン」と同様、岩本洋二専門委員（防災が専門分野）による講義「ニュースの価値」を実施しました。記者による「ニュースには価値がある」という発信を受け、「新聞でアクティブ・ラーニング」の実践としてのワークショップ（80分間）を設定しました。

「記事の価値判断」重点に

「まわしよみ新聞」から見える新聞活用の可能性は、教員免許状更新講習や大学での教職特別講座、各地区での教員研修会などでの実践から果てしなく広がってきます。

新聞などを媒介としたコミュニケーションの方法として提案された「まわしよみ新聞」の活動には、「主体的に新聞を読む」「記事を紹介し合う」「考えを深め広げる」「グループで記事の価値判断をする」「2つの新聞として発信する」、まさに「主体的、対話的で深い学び」の姿があると考えました。ここでは、岩本専門委員の講義を受けて、グループでの「記事の価値判断」に重点をおき、議論

しまとめる時間を多く設定しました。また、「児童生徒に発信する」視点で新聞のテーマを考えること、さらに、テーマのつけ方は、新聞の見出しに学ぶことなどを助言しました。

「わかりやすい見出しをつけるのが難しかった」という感想もありました。ワークショップによって、先生自身が児童生徒の気持ちが変わるという効果も見えてきました。また、「研修は実際役に立つと思った」という声もいただきました。

工夫次第で広がる学習範囲

職場体験学習の事前学習で「まわしよみ新聞」に取り組んだ中学校があります。体験する職種ごとにグループ編成をし、自分が体験する仕事に関する記事を集めて持ち寄り、「まわしよみ新聞」をする活動です。

また、道徳の授業では、授業前に問題意識をもたせるため、授業のテーマに関する記事を読み、スクラップをさせ、グループごとにまとめるという実践も可能ではないでしょうか。「今」を題材に、答えのない課題に取り組み、考え議論をする学びに、新聞は大いに活用できるのではないかと、考えています。

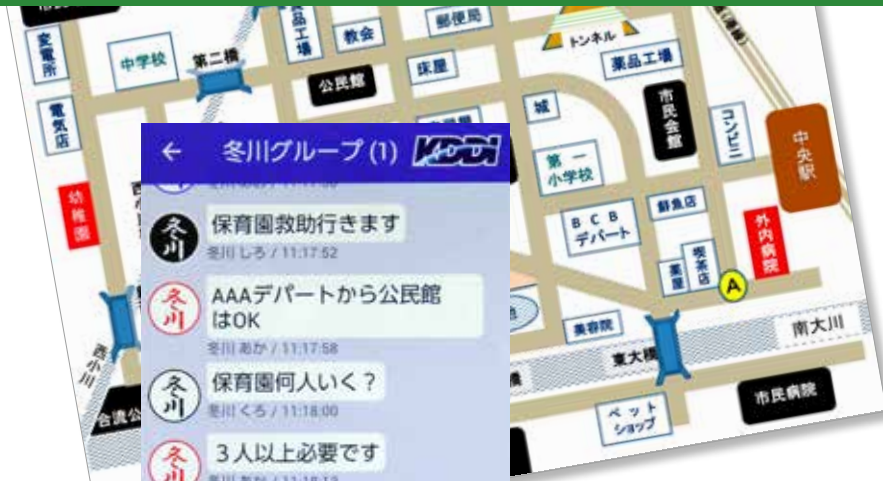
このように、「まわしよみ新聞」を活用した学習は工夫次第で膨らみ広がります。先生方には、是非、様々な場面で実践・応用をしていただけることを願っています。

活用テクニック学ぶ

スマホで防災

出前授業

共立女子中学・高等学校 × KDDI



他の班にいる家族とスマホで情報交換



説明する引地さん(左)



スマホで得た情報を地図に落としこく

地域防災の担い手として期待

グループのメンバーは同じ場所にいるという想定で、1人に1台ずつauの端末が配られた。KDDIが独自に開発したチャット型のアプリが入っており、離れた場所にいる「家族」と安否を確認し合った。

各班には前もって地区の被災情報や、それ以外の情報が織り込まれた文書、他グループのメンバーがいる地域の地図が渡されている。各自が他の地域にいる家族から得た情報も突き合わせ、通行できない場所に印を書

KDDI社員による出前授業「スマホで防災リテラシー」が1月11日、共立女子中学高等学校(東京都千代田区)で開催された。昨年9月、兵庫県西宮市の高校で実施したのに続いて2回目。今回参加したのは高校3年生の生徒47人。屋外で班活動中に大地震が発生したとの想定で、4、5人のグループに分かれ、スマホをライフラインとして有効活用するテクニックを実践的に学んだ。

き入れ、グループとして取るべき避難所までのルートを地図に書き添えていく。自身の避難ルート上では、救助活動を行う地点も決めるのがポイントだ。高校生たちの端末操作は素早く、制限時間内にはほとんどのグループが作業を終わらせた。

「すでにスマホを使いこなし、土地鑑や、体力もある皆さんは、大地震が発生した直後は、自分の身を守りながら、地域防災の担い手となることも期待されています」。訓練を指導したKDDIコーポレート統括本部総務部CSR・環境推進室の引地みち子さんは、自助や共助の

簡潔に伝える難しさ実感

心構えを高校生たちに強調した。

訓練に参加した濱田恰衣さんは、「情報を分かりやすく簡潔に伝えるのがけっこう難しかった」

「カクヨム甲子園」選考結果決まる

昨年7月より募集が開始された、KADOKAWA

主催・読売新聞社後援の高校生限定文学コンテスト「文学はキミの友達。『カクヨム甲子園』」の最終選考結果が発表されました。このコンテストはWeb小説サイト「カクヨム」にて行われた、全国の高校生を対象とした小説・エッセイのコンテストで、じっくり書けるロングストーリー部門(8,000文字以上、20,000文字以下)、気軽に書けるショートストーリー部門(4,000文字以下)の2部門が用意されており、両部門合わせて1,089本の作品が投稿されました。

ロングストーリー部門の大賞には、『あまのじゃく』作者: 風(こがらし・長崎県立佐世保西高等学校3年)が、ショートストーリー部門の大賞には『この世には理解できないことがあるのかかについての考察』作者: sichisei(しちせい・岩手県立盛岡第一高等学校3年)が選出。また、それぞれの部門において、読売新聞社賞(各部門1名)、奨励賞(各部門5名)が選出されました。作品はカクヨムでご覧いただけます。
<https://kakuyomu.jp/special/entry/kakuyomukoshien>

た」と話す。「高校生たちは日常会話のようなたわいもない情報をやりとりすることは得意なのですが、必要な情報をきちんと簡潔に伝える機会が意外と少ないようです」と引地さん。

KDDIでは2005年度から全国の学校で、携帯電話やスマホを正しく使用してトラブルに巻き込まれないための講座を、延べ2万回以上も開催してきた。

今回の授業に参加した高校生は、ほぼ全員が私有スマホを持っていた。KDDIは、情報リテラシーを高めるこの体験型授業を、来年度はさらに充実させていく方針だ。

大和証券グループが「こども応援基金」を設立

3団体に助成



中田社長(左)から助成の贈呈書を受け取る「SOS子どもの村JAPAN」の福重淳一郎理事長

大和証券グループ本社は、子どもの貧困問題に取り組む団体の事業やプログラム開発を支援する「大和証券グループ輝く未来へこども応援基金」を公益財団法人バブリックリソー(久住剛・理事長)と創設し、3団体への助成を決めた。選ばれたのは「SOS子どもの村JAPAN」「PIECES」「Learning for All」3団体でいずれもNPO(特定非営利活動法人)で助成額はそれぞれ300万円。

子どもの環境改善や貧困の連鎖ストッブ目指し

授与式は1月19日、大和証券グループ本社で行われ、中田誠司同社執行役社長があいさつ。「少子高齢化の中、貧困問題をきっかけとして日本の将来を担う社会人としての十分な資質を学ぶ機会に恵まれないということにつなが

る。子どもの環境改善や貧困の連鎖を阻止することが必要。皆さんといっしょに取り組んで行きたいと思っっている」などと基金の趣旨について説明した。

基金は学識経験者や子どもの貧困問題に取り組んでいるNPO法人の代表者ら5人からなる審査委員会を設け、2017年10月から助成団体を募集した。全国から104

団体の応募があり、2回の審査委員会を開いて選んだ。バブリックリソース財団の岸本幸子専務理事は選考基準について「貧困のリスク低減に向けたロジックモデルが明確であるか。事業開発計画が適切か。健全な組織運営であるか——など五つの選考基準で選んだ」と話した。

一時保護やコミュニティワーカー育成、学習支援

「SOS子どもの村JAPAN」は福岡市で子どもの村を開設し家庭的に問題がある子どもの一時保護・ショートステイなどの活動を行っている。「PIECES」(東京都文京区)はコミュニティワーカーを育成し孤立する子どもの支援をしている。

「Learning for All」(東京都新宿区)は、小・中学生に対して学生教師による学習支援を行っている団体。審査委員の一人瀬戸真一同社広報部長は「我々としても子どもの貧困問題は簡単に解決できるものではないと思っている。続けていきたいと思っている」と話した。

同基金は、5年間で総額1億円を用途に支援を行う。

「偏差値」以外で大学を探そう! 動画で見る「大学の實力」バイキング

動画はこちら→ <http://kyoiku.yomiuri.co.jp/torikumi/jitsuryoku/yomitoku/contents/-20181.php>

全国692大学の最新データを満載した書籍「大学の實力2018」(中央公論新社)を活用するワークショップ「大学の實力バイキング」の様子を約2分30秒にまとめた動画を、読売教育ネットワークのウェブサイトで公開しています。

「大学の實力」調査は、偏差値や知名度ではなく教育の中身で大学を選んでもらおうと、11年目を迎えた今年も春に実施を予定しています。調査項目は、文部科学省でも把握が難しいとされる退学率や留年率、正規雇用(就職)率などです。

受験生ら対象のセミナーを撮影

「大学の實力バイキング」の動画は、昨年9月30日に実施したセミナー「『大学の實力』を読み解く——偏差値で選んでいいの?」の様子を編集したものです。セミナーでは、子どもとその保護者、高校の進路指導担当者ら計約60人がワークショップに臨みました。

参加者は、料理のバイキングと同様に、「主食」「主菜」「副菜」「汁物」「果物」に見立てられたカードから、自分の好みのカードを選択。カードのうち「主菜」カードには、大学・学部ごとの退学率や入試



方法別退学率など「大学の實力」調査の主要項目が記され、「主食」カードにはブランド・評判といった大学選びの基準が並びます。

進路選択に多様な物差し

ワークショップは、進路選択には偏差値以外にも多様な物差しがあることを参加者に知ってもらおう狙いがあり、参加者からは「すごく楽しかった。(大学進学について)改めて考える機会をもらった」といった声が上がりました。

参加者募集! 2月17日(土)
大学の實力バイキング @福岡

ワークショップ「大学の實力バイキング」が、2月17日(土)に福岡市で開催されます。参加費1500円(『大学の實力2018』をプレゼント)。申し込みは応募フォームから <https://form.qooken.jp/Q/ja/jitsuryoku/0217/>



文章術の名著 待望のまんが化

中公新書のロングセラー『理科系の
作文技術』（木下是雄著）の
まんが版が、1月25日に中央公論
新社から刊行されました。



まんがでわかる
理科系の作文技術

原作：木下是雄／作画：久間月慧太郎
定価：本体1200円（税別） 四六判、176ページ

STORY 本書の主人公・新田文（あや）は新卒の就職活動に失敗し、大学時代の先輩の助いでIT企業の契約社員として働き始める。文はSF小説が好きで作文には自信があったが、「仕事の文書」で求められる文章は、まったく違うものだった。一風変わった上司・梶山聡（さとし）の指導を受けながら、文は少しずつ「相手に伝わる文章」の技術を習得していく。



『理科系の作文技術』は「ひとすら明快で簡潔な表現」を追求し、大学の授業のテキストとして30年以上にわたり支持されてきました。累計100万部を超えるロングセラーとなったのは、理科系の文章に限った内容ではなく、文科系の読者にも新

鮮な刺激を与え、様々な立場の人から高い評価を得たためです。最近SNSやメールなど連絡手段が増え、簡単に用件を伝えることができるようになりました。しかし、一方で報告書など文書の作成が苦手な人も多く、仕事や就活で困難に直面す

るケースも目立っています。相手にきちんと伝わる文章が書ければ、その後のやり取りもスムーズに進めることができます。新たな『まんがでわかる』版では、現代の実情に合わせて、論文やレポート、仕事の文書の書き方のエッセンスを、主人公が成長するストーリーからま

「仕事の文書」を書くのに悩んでいる社会人だけでなく、「論文・レポート」を書く大学生、中高生など、いますぐ「相手に伝わる文章」を身につけたい人におすすめの1冊です。

PRESENT

『まんがでわかる 理科系の作文技術』を10人にプレゼントします。応募はこちらから
<https://form.qooker.jp/Q/auto/ja/present/rika/>



締め切りは2月15日（木）
応募多数は抽選、当選結果は発送をもって代えさせていただきます。



マギル大学

1821年創立のカナダ最古の大学。学生数4万人で、卒業生にカナダのトルドー現首相ら3人のほか、俳優のウィリアム・シャトナー（TVシリーズの『スタートレック』のカーク役）、ノーベル賞受賞者12人を輩出している。



学寮の友人に囲まれる小田絵美理さん（前の列左から2人目）＝本人提供

海外で学ぶ・リレーエッセー ③7 カナダ マギル大学 多文化環境の中での新しい価値の習得

実践女子学園高校（東京都）卒、マギル大学（カナダ）1年（執筆時）

小田 絵美理 さん



私のマギル大学での1年目はめまぐるしく過ぎていった。大学でもモンリオールでの生活でも、多くの困難に直面したが、私が得た経験はかけがえのない

ものとなった。ファカルティ・オブ・アーツ（教養学部）では多種多様な授業があるため、様々な教科を受講できた。科目は違っても、

私は教授の多くが批判的思考を身につけるよう指導していることに気がついた。クラスメイトもよく批判的な意見をあげていた。例えば、社会学のクラスで、学生たちは、授業で使用している教科書が特定の事象について適切な説明をしていない、と指摘していた。

この経験から、それほど信頼できそうなものであっても、その情報の信頼性を批判的観点から評価する重要性を学んだ。その後、私はある体験を通じ、情報を無差別に消費することは不適切な考え方に繋がりがねず、大変危険だと感じた。その体験とは、私が出席したあるワークショップでの出来事だった。そのとき私は完全に指導員達を信じ切っていたのだが、もしあのまま彼らの偏向に気づかず有益を装った情報に従っていたら、私は今頃彼らにだまされていたかもしれない。

さらに私は最初の1年で、自己主張の大切さも学んだ。以

前、私は耐えることが美德だと考えていたのだが、それが原因で、学寮のルームメイトが部屋に何泊か、彼氏を泊めたい、と言ってきたときも、それを断れなかった。結果的にそれで私は肉体的にも精神的にも疲労しきってしまった。

このような出来事を受け、私は大学で行われた自己主張についてのセミナーに参加した。そして、自己主張は決して傲慢なことではなく、自分の心身の健康を守るためには不可欠だ、と気がついた。日本の文化では自己を主張することは相手に対して失礼だと思われがちである。しかし、率直に自分の要望を人に伝えることは、自分がどんな人物か、何を欲しているのか、を相手に理解してもらうのに役立つ、コミュニケーションにおいても重要だと学んだのだ。

それ以来私は、自分の気持ちや意見をおそれることなく、人に伝えられるようになった。初めは少し戸惑ったが、それでも必要とあれば、違う意見を言ったり断ったりできるようになった。

加えて、大学の独特の環境が、大学生活1年目をより豊かなものにしてくれた。マギル大学は、学生の約25%が留学生であり、多様性にあふれている。

それを私は、とても魅力的に感じた。世界中から集まった仲間と学ぶことは文化的理解を深め、広い視野を培うことにつながる。

それから、大学は都会に立地しており、学生はお店やレストラン、余暇や課外活動を気軽に楽しむことが出来る。モンリオールは仏語圏最大の都市の一つとしてもよく知られていて、街の至る所でフランス文化を感じることが出来る。受講したフランス語の授業のおかげで、今ではフランス語で注文を取れるようになった。人々は芸術をこよなく愛し、マギルは世界でも有数の音楽プログラムと才能ある生徒を誇るため、私は大学の内外問わずクラシック音楽や合唱、バレエのコンサートなどをよく鑑賞した。

専攻を社会学と決めた今こそ、学問を究め、多文化・多言語環境を最大限に利用したいと考えている。（会報編集部抄訳 The Japan News 2017年7月13日）

海外留学を目指す高校生に進学支援を行っているNPO法人「留学フェロシップ」のメンバーが、海外のキャンパスライフをリレー連載します。留学フェロシップの詳細はウェブサイトへ。http://ryu-fellow.org

- 基調講演 大滝 一登・文部科学省
初等中等教育局視学官
- 実践報告 田村 香代子・杉並区立高井戸小学校教諭
菅井 和生・文京区立関口台町小学校教諭
伊吹 侑希子・京都学園中学高等学校教諭
- まとめ 秋山 純子・読売新聞東京本社
教育ネットワーク事務局アドバイザー

児童生徒が自ら考え、表現する力を育てるアクティブ・ラーニングの方法として、新聞を使ったさまざまな授業実践を紹介します。

アクティブ・ラーニングは、次期学習指導要領で「主体的・対話的で深い学び」として重視されており、最新ニュースを題材に思考力、判断力などを養う新聞活用学習は、その手法として注目されています。

新聞で アクティブ ラーニング

2018.2.24(土)

午後2時～午後5時

(受付開始 午後1時30分)

新聞@スクール
セミナー

- ◆会場 読売新聞東京本社(東京都千代田区大手町1-7-1)
- ◆対象 教育関係者および関心のある参加希望者
- ◆申込方法 下記の必要事項を添えて
新聞@スクールセミナー係までお申し込みください。
- ◆締め切り 2月11日(日)必着。申し込み多数の場合は抽選。
参加いただく方には聴講券をお送り致します。

件名:「新聞@スクールセミナー申し込み」

- ①郵便番号
- ②住所
- ③氏名(ふりがな)
- ④電話番号(日中連絡可能)
- ⑤勤務先・学校名

メール:nie7717@yomiuri.com

FAX:03-3217-8362

はがき:〒100-8055 読売新聞東京本社
教育ネットワーク事務局
「新聞@スクールセミナー係」



お問い合わせ:読売新聞教育ネットワーク事務局
03-3217-1989 (平日午前10時～午後5時)
詳細は読売新聞紙上とウェブサイト
<http://kyoiku.yomiuri.co.jp/>

読売新聞東京本社
教育ネットワーク事務局宛

新聞@スクールセミナー
「新聞でアクティブ・ラーニング」
申し込み

住所	〒
氏名	ふりがな -----
TEL	
勤務先 ・ 学校名	
聴講券送付先	勤務先 ・ 自宅